

排出削減事業 計画

排出削減事業の名称：

ナガセケムテックス播磨事業所における
ボイラー更新事業

排出削減事業者名：ナガセケムテックス株式会社

排出削減事業共同実施者名：財団法人 ひょうご環境創造協会

その他関連事業者名：

目次

1	排出削減事業者の情報	2
2	排出削減事業概要	2
2.1	排出削減事業の名称	2
2.2	排出削減事業の目的	2
2.3	温室効果ガス排出量の削減方法	2
3	排出削減量の計画	3
4	国内クレジット認証期間	3
5	活動量・原単位	4
5.1	活動量・原単位	4
5.2	活動量の採用根拠	4
6	温室効果ガス排出削減量の算定	5
6.1	排出削減事業に適用する排出削減方法論	5
6.2	選択した方法論がこの排出削減事業に適用できる理由	5
6.3	事業の範囲（バウンダリー）	5
6.4	ベースライン排出量の算定	5
6.5	リーケージ排出量の算定	6
6.6	事業実施後排出量の算定	6
6.7	温室効果ガス排出削減量の算定	6
6.8	追加性に関する情報	7
7	モニタリング方法の詳細	8
7.1	モニタリング対象	8
7.2	モニタリング対象の QA/QC	9

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	ナガセケムテックス株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	ナガセケムテックス株式会社 播磨事業所
住所	兵庫県たつの市龍野町中井 236
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業 共同実施者名	財団法人 ひょうご環境創造協会

2 排出削減事業概要

2.1 排出削減事業の名称

ナガセケムテックス播磨事業所におけるボイラー更新プロジェクト

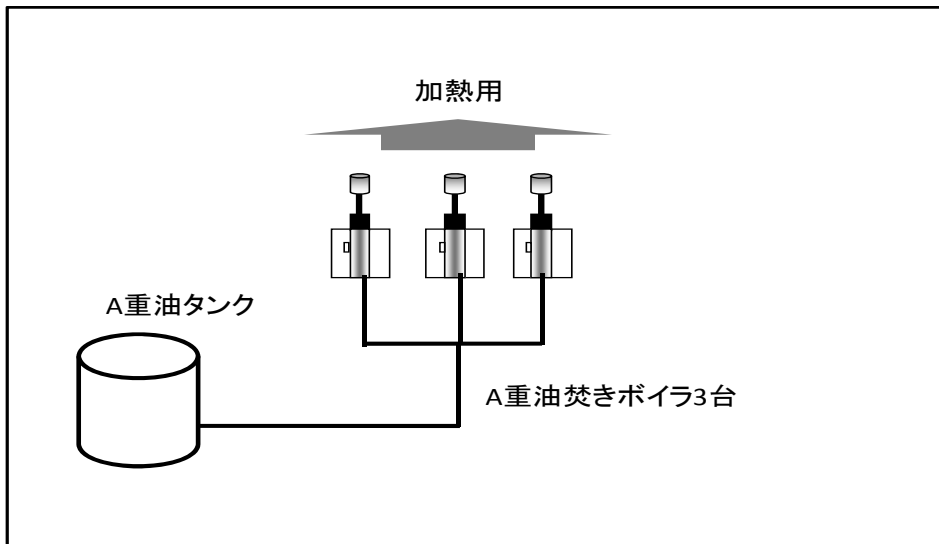
2.2 排出削減事業の目的

本事業は、A 重油焚きボイラー3 台を高効率の LNG 焚きボイラー6 台へ更新するものである。

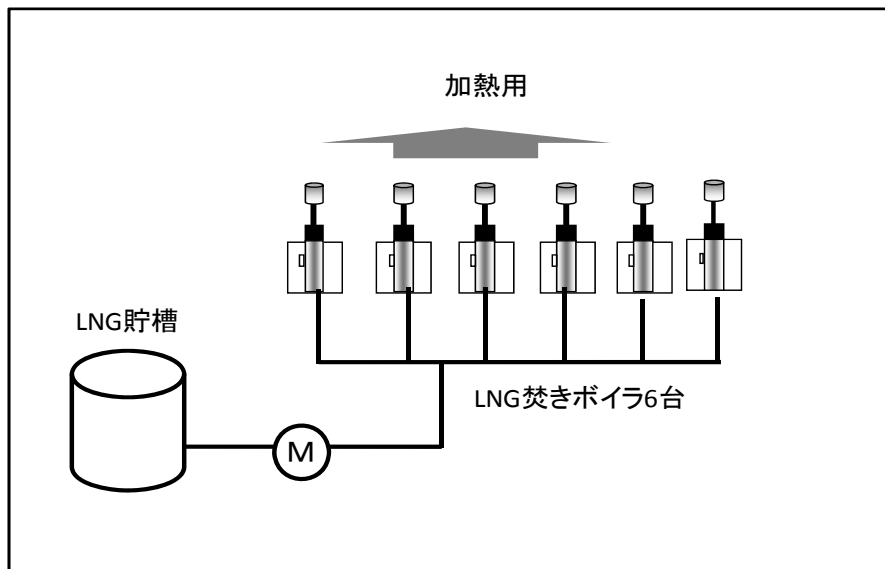
2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

ナガセケムテックス播磨事業所において、既設の A 重油焚きボイラー3 台を LNG 焚きボイラー6 台に更新することにより二酸化炭素排出量を削減し、燃料を A 重油からより低炭素の LNG に転換することによりさらに二酸化炭素排出量の削減を図る。

(排出削減事業実施前の設備概要)



(排出削減事業実施後の設備概要)



3 排出削減量の計画

年	ベースライン排出量 (tCO2/年)	事業実施後排出量 (tCO2/年)	排出削減量(tCO2/年)
2008 年度	1,365.6	931.6	434
2009 年度	5,462.6	3,726.5	1,736
2010 年度	5,462.6	3,726.5	1,736
2011 年度	5,462.6	3,726.5	1,736
2012 年度	5,462.6	3,726.5	1,736
合計	23,216.0	15,837.6	7,378

4 国内クレジット認証期間

事業開始日 2009 年 1 月 1 日
 終了予定日 2013 年 3 月 31 日

5 活動量・原単位

5.1 活動量・原単位

本事業では活動量・原単位は使用しない。

対象	活動量	原単位

5.2 活動量の採用根拠

本事業では活動量・原単位は使用しない。

6 温室効果ガス排出削減量の算定

6.1 排出削減事業に適用する排出削減方法論

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

6.2 選択した方法論がこの排出削減事業に適用できる理由

- ◆本事業は、既存のボイラーよりも高効率のボイラーに更新するため、条件 1 を満たす。
- ◆ボイラーの更新が行われなかった場合、既存のボイラーを継続して利用することができた為、条件 2 を満たす。
- ◆更新後のボイラーで生産した蒸気はすべて自家消費する為、条件 3 を満たす。

6.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、ナガセケムテックス播磨事業所において更新される A 重油焚きボイラー及び LNG 焚きボイラーから熱・蒸気の供給を受ける設備である。

6.4 ベースライン排出量の算定

(1) ベースライン排出量の考え方

本事業のベースラインは、ボイラーの更新を行わずに、更新前のボイラーを使用し続けた場合に想定される二酸化炭素排出量である。

(2) ベースラインエネルギー使用量

方法論 001 により、ベースラインエネルギー使用量は以下の通りである。

$$\begin{aligned}
 Q_{fuel, BL} &= F_{fuel, Pj} \times HV_{fuel, Pj} \times \varepsilon_{Pj} / \varepsilon_{BL} \\
 &= 1,381,871 \times 0.0546 \times 86.4 / 82.7 \\
 &= 78,825.8 \quad (GJ/\text{年})
 \end{aligned}$$

$Q_{fuel, BL}$	ベースラインエネルギー使用量	78,825.8	GJ/年
$F_{fuel, Pj}$	事業実施後燃料（LNG）の使用量	1,381,871	kg/年
$HV_{fuel, Pj}$	事業実施後燃料（LNG）の単位発熱量	0.0546	GJ/kg
ε_{Pj}	事業実施後ボイラー効率（高位発熱量時）	86.4	%
ε_{BL}	事業実施前ボイラー効率（高位発熱量時）	82.7	%

(3) ベースライン排出量

方法論 001 により、ベースライン排出量は以下の通りである。

$$\begin{aligned}
 EM_{BL} &= Q_{fuel, BL} \times CF_{fuel, BL} \times 44 / 12 \\
 &= 78,825.8 \times 0.0189 \times 44 / 12
 \end{aligned}$$

$$= 5,462.6 \text{ (tCO}_2\text{/年)}$$

EM_{BL}	ベースライン排出量	5,462.6	tCO ₂ /年
$Q_{fuel,BL}$	ベースラインエネルギー使用量	78,825.8	GJ/年
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前燃料、A 重油の単位発熱量あたりの炭素排出係数	0.0189	tC/GJ

6.5 リークージ排出量の算定

本事業で方法論 001 が想定するような温室効果ガス排出及び申請者が主張する排出削減量の 5%を超える顕著かつ計測可能なバウンダリー外での温室効果ガスは見られない。

6.6 事業実施後排出量の算定

方法論 001 より、事業実施後排出量は以下の式に表される。

$$\begin{aligned} EM_{Pj} &= F_{fuel,Pj} \times HV_{fuel,Pj} \times CF_{fuel,Pj} \times 44 / 12 \\ &= 1,381,871 \times 0.0546 \times 0.01347 \times 44 / 12 \\ &= 3,726.5 \text{ (tCO}_2\text{/年)} \end{aligned}$$

EM_{Pj}	事業実施後排出量	3,726.5	tCO ₂ /年
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料（LNG）の使用量	1,381,871	kg/年
$HV_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料（LNG）単位発熱量	0.0546	GJ/kg
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料（LNG）単位発熱量あたりの炭素排出係数	0.01347	tC/GJ

6.7 温室効果ガス排出削減量の算定

$$\begin{aligned} ER &= EM_{BL} - (EM_{Pj} + LE) \\ &= 5,462.6 - (3,726.5 + 0) \\ &= 1,736 \text{ (tCO}_2\text{/年)} \end{aligned}$$

ER	排出削減量	1,736	tCO ₂ /年
EM_{BL}	ベースライン排出量	5,462.6	tCO ₂ /年
EM_{Pj}	事業実施後排出量	3,726.5	tCO ₂ /年
LE	リークージ排出量	0	tCO ₂ /年

6.8 追加性に関する情報

6.8.1 基本的情報

排出削減事業の実施は、法的な要請に基づくものか？	<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
設備更新を行わなかった場合、既存設備は継続して利用できるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 利用できる <input type="checkbox"/> 利用できない

注) ここでいう「法的な要請」とは、法令等の規定に基づき、設備更新等を行った結果、排出量が削減される場合における、当該法律を指す。

6.8.3 投資回収に関する情報

投資回収年数	6.8年
--------	------

6.8.4 その他の障壁に関する情報

7 モニタリング方法の詳細

7.1 モニタリング対象

項目	定義	単位	排出削減量算定時に使用した値	モニタリング方法	記録頻度	データ記録方法 (電子媒体・紙媒体)	データ 保管 期限	備考
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後の LNG の使用量	kg	1,381,871	LNG の請求書。	月	紙媒体	5 年	
ε_{Pj}	更新後のボイラー効率	%	86.4	カタログ値(高位発熱量時)	年	紙媒体	5 年	
ε_{BL}	更新前のボイラー効率	%	82.7	カタログ値(高位発熱量時)	年	紙媒体	5 年	
$HV_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料 (LNG) の単位発熱量	GJ/kg	0.0546	国内クレジット制度のデフォルト値	年	紙媒体	5 年	
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料 (LNG) の単位発熱量あたりの炭素排出係数	tC/GJ	0.01347	国内クレジット制度のデフォルト値	年	紙媒体	5 年	
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前燃料 (A 重油) の単位発熱量あたりの炭素排出係数	tC/GJ	0.0189	国内クレジット制度のデフォルト値	年	紙媒体	5 年	

7.2 モニタリング対象の QA/QC

項目	QA/QC 手順
事業実施後の LNG 使用量	• ナガセケムテックス播磨事業所の担当者が LNG の請求書をファイリングする。
LNG の炭素排出係数	• 国内クレジット制度のデフォルト値に変更がないかを確認。変更があった場合、変更後の炭素排出係数を記録する。